脂質異常症

（高コレステロール血症・高トリグリセリド血症）

血液中の脂質（コレステロールや中性脂肪）のバランスが崩れた状態です。
自覚症状はほとんどなく、気づかないうちに動脈硬化が進行し、
心筋梗塞や脳卒中などの重大な病気を引き起こす
リスクが高まります。早期発見と継続的な管理が重要です。

動脈硬化の進行を防ぎ、
心血管イベントの
リスクを低減します

心筋梗塞　脳卒中　末梢動脈疾患

主な原因

- 食生活の乱れ（脂質・糖質の過剰摂取）
- 運動不足
- 肥満
- 喫煙
- 遺伝的要因
- 加齢

主な脂質検査項目

	内容	正常値（空腹時採血）
TC	**総コレステロール** 血液中の総コレステロールの値。	130～219 mg/dL
LDL-C	**LDLコレステロール（悪玉コレステロール）** 動脈硬化の原因となるコレステロール。	70～139 mg/dL
HDL-C	**HDLコレステロール（善玉コレステロール）** 余分なコレステロールを回収する働きがある。	40～100 mg/dL
TG	**中性脂肪（トリグリセリド）** エネルギー源となる脂質。 高値が続くと動脈硬化や膵炎のリスクに。	50～149 mg/dL

※正常値は当院の基準です。

治療と生活習慣の改善

薬物療法と生活習慣の改善を組み合わせ、将来の心血管イベントを予防します。

薬物療法（必要に応じて）

- スタチン製剤（LDL-Cを低下）
- フィブラート系薬剤（中性脂肪を低下）
- エゼチミブ、PCSK9阻害薬 など

生活習慣の改善

- バランスの良い食事
- 適度な運動の継続
- 禁煙・節酒
- 適正体重の維持

定期的な検査と継続的な管理が大切です

自覚症状がなくても、定期的な血液検査でチェックし、早期から適切な治療や生活習慣の改善に取り組みましょう。

健診や検査で早期発見し、動脈硬化の進行を防ぎましょう。 | 定期的な受診で、未来のリスクを減らします。